

6・12 民主化闘争決起集会

JR連合は、6月12日、東武ホテルレバント東京において、JR連合第27回定期大会終了後「6・12民主化闘争決起集会」を開催した。集会ではフリーライターの西岡研介氏を招いて特別講演をいただき、その後、民主化当該三単組からJRの民主化実現へ向ける力強い決意表明がされた。JREユニオンからは、国井事務局長が壇上に上がり、正常な労使関係のあり方、真に求められるのは私たちイーストユニオンであり、JR連合への結集を呼び掛け、「万里一空」必ずや民主化実現を成し遂げる、と私たちイーストユニオンの決意を熱く述べ、JR連合、加盟各単組へさらなる支援を要請した。

特別講演 西岡研介氏

テーマ「これから始まるJR東日本の本当の戦い」



JR東労組の大量脱退、なぜ弱体化に至ったのか。彼らの人格的代表者松崎氏が2010年に亡くなった。実は、さらに8年前の2002年に嶋田グループ、マングローブと言われる方々を除名した頃から弱体化は始まっていた。除名された方々と残った東労組の幹部では雲泥の差があった。会社はそのことを見ていたと思う。会社は、革マル問題をいつかは解決しなければならないと考えていたようだ。また、会社は10年単位で対応を考えていた。週刊現代で24週連載した2006年当時、会社は本当にやる気はあるのかと思っていたが、現在は、革マルを切る方向に舵を切った富田会長(前社長)、深澤社長には敬意を表したい。会社にとっては三鷹電車区事件、浦和電車区事件が重くのしかかったようだ。10年20年にわたるイーストユニオンの粘り強い取組みの成果でもある。何よりそうした東日本のイーストユニオン、当時の東日本ユニオンをJR連合が支え続けたことが要因となった。

会社は、30年続いた革マル労組との関係を断ち切った。その労政転換は称賛に値するが、その取組みは、始まったばかりである。……



週刊東洋経済「JRの歪んだ労使関係」集中連載

※ 6月11日発売の東洋経済(6月16日号)「革マル派と密接な最大労組が自壊 JR東労組3万人脱退の真相」西岡研介氏の記事が掲載されています。

真にあるべき労使関係を創り直すためJR連合への結集を呼びかけます!